

小松電機産業

“水神”被災地で活躍

南会津町に100万円を贈呈

小松電機産業は6日、今年9月の豪雨災害で大きな被害を受けた福島県南会津町に災害義援金100万円を贈呈、同町の渡部龍一副町長が受け取った。同町では、平成25年から同社のクラウド総合水管理システム「やくも水神」を町内31施設で導入。同システムが利用する広域無線パケット通信網は、豪雨災害発生時にも通信が途絶することはなかったことで、水道施設の被災状況を遠隔地から把握することができた。



渡部副町長(左)に義援金を手渡す小松社長

今年9月、台風18号に伴う豪雨のため、南会津町内を流れる松沢川・館岩川が氾濫し、全域で多くの被害が発生。水道施設では管路破損、河川高濁・取水口閉塞による浄水処理停止といった被害が発生。最大で491戸が断水した。松沢川に架かる橋も流されるなど、水道管のほかにも道路や電線、光ファイバー線などが寸断され、被災地域との連絡が困難な状況となった。

一方、クラウド総合水管理システム「やくも水神」は、通信手段に自然災害に強い広域無線パケット通信網を利用している上、バックアップ電源ユニットの搭載も可能。今回の豪雨災害では、交通が途絶し同町の職員が現場に入ることが困難な状況であったが、タブレット型端末やスマートフォンを用いて業務を継続することができた。

渡部副町長は「水神の採用により、職員の維持管理面の負担が軽減されてきた上、今回の災害では別の面でも職員の役に立った。その上、義援金をいただいたことに感謝している」と謝意を述べた。

を開発。今年3月から町内5カ所まで全国に先駆けで運用を行っている。提案者である同課の星善介主査は、取水サンプリング調査の人員費削減、いつでもどこでも残塩を遠隔監視できると、トレーサビリティとしての残塩濃度の記録、必要に応じてデータの確認・開示、浄水場と管末の残塩濃度の比較

等を要望。これに対し、同社では計測器メーカーとも検討を進め、システム開発に成功した。星主査は「やくも水神を活用した下水道のマンホールポンプ制御盤の存在を知り、同様のものが残塩監視でも作れないかと考えたのがきっかけ」と話す。今後について「やくも水神の採用により、通信費が大きく節約でき

ている。今後は、電力使用量を削減できる水運用方法の検討などにも活用できれば。残塩監視システムの活用により、塩素注入量の最適化にも役立っていききたい」と話す。小松昭夫社長は「南会津町はクラウド活用先進地。今後、やくも水神を活用して地方創生も行っていきたい」と話している。